

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（10月定例会）
開催日時	令和4年10月28日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎3階会議室
出席者	委員：川原議長、小松副議長、伊尻委員、黒羽委員、河野委員、坂内委員、菅野委員 攝賀委員、高橋委員、長谷川委員、松本委員 事務局：吉田社会教育課長、神保社会教育係長、齋藤主事（社会教育主事）、野田主事
議題	(1) 執筆分担について (2) 提言について
配付資料	
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●議題について

議題（1） 執筆分担について

○事務局：前回の会議で提言の章立てを確定いただいた。今回の会議から各論の議論に入っていただくが前回の会議において、文章化の進め方、執筆分担についても検討することになっていたもので、そのご検討をお願いしたい。

○議長：執筆分担のイメージとしては、執筆を担当する委員が執筆内容を一から考えていただくということではなく、各委員から会議で、意見を出していただき、その文章化を執筆担当の委員に受け持っていただくというイメージである。

正副議長の2人で「第1章はじめに」と「第2章現状と目指す像（方向性）」、最終的な総括ということで「第4章まとめ」を担当し、「第3章人材の育成、活用」について9名が担当、全体の確認をしていただく監修を他の2名していただきたい。

監修については学校と地域と行政全体に精通している校長先生2名をお願いしたいと考えるがいかがだろうか。

一同同意

○議長：監修は校長先生2名をお願いし、「第3章人材の育成、活用」は各節ごとに委員2、3名で受け持っていただく。

各委員が執筆担当する節の検討

議題（2） 提言内容について

○事務局：前回の会議で提言の章立てが確定したので、今回から各項目の議論に入りたい。今回の検討事項は第2章の（1）現状と課題、（2）目指す地域のイメージ、（3）目指す人材のイメージについて議論をいただきたい。

○議長：本日は第2章について議論をしたい。（2）目指す地域のイメージ、（3）目指す人材のイ

メージを中心に先生方からご意見を頂戴し、進めたい。意見をいただく方法だが、全員が揃っている場でお話をしにくいというような状況もあり得るかと思うので、トーキングスティックというワークショップの手法を用いたい。

【トーキングスティックの進め方】

- ・スティックを持っている人が発言をする。
 - ・発言を終えると次の人にスティックを渡し、受け取った方が発言をする。
 - ・ある程度の議論が出た時点で意見交換をする。
- ファシリテーターと板書は議長が務める。

- 議長：目指す人材のイメージについて、私は社会教育を知っている人が地域に増えることが理想的であると考えている。社会教育の言葉を詳しく知らなくても、実は既に地域活動に関わって活動している方もたくさんいると考える。社会教育を知っている人に多くの活動に関わってもらい、社会教育の仕組みを担う人が増えることが私の持っている目指す人材のイメージである。
- 委員：先日、地域の小学校でイベントがあり、1週間前に手伝いの依頼メールが来たが、昔なじみのメンバーが集まった。この経験から、すぐに集まる人材、それが一番大切であると感じた。いつでもどこでも何かあったときに手伝いに行ける、そういう人材というのがやはり一番大切であると考えている。
- 委員：社会教育を軸にして考えたときの人材とは、主体的に地域に関われる人であると考えている。その一段階前が地域に関心を持つ人。地域に関心を持つ人が増えていくと、主体的に関わっていくと考える。それに対照的な人が、忙しくて、日々の生活に追われていて、もう自分の生活でいっぱいいな人であると考えている。
- 委員：地域にはいろんな組織団体等で活動している方がいて、その中心となる方たちの存在もとても大切である。また、関わる活動がとても楽しいと感じられれば積極的に取り組んでいただけるのではないだろうか。
- 委員：活動が楽しいというのはとても大事である。「やらねばならない」だと活動が続かないので、楽しいから活動を続けているというような人が大勢集まってくることが一番大事だと考える。
- 委員：地域には何か手伝ってみたいというような方々が結構いる。そういう方たちは地域に愛着を持っていたり、遠くの方から眺めている方もいるので、そのような方を発掘したり、コーディネートしてもらったりできると素晴らしい人材が集まるのではないかと。
- 委員：地域活動に参加したいが、できていない人を導いたり、繋いだり、コーディネートできる人が大事であると考えている。
- 委員：求められる人材のイメージは、リーダーになれる存在の周りにリーダーを支える人たちがいて、そのリーダーを支える人たちが、外側にいる人たちを巻き込んでいけるようなイメージがある。
- 人材を確保する手法は、別に新しい手法があるわけではなく、地道に情報を集めながら、人間関係を作り、そして相手を巻き込んでいくものである。
- 地域活動や取組に参加できていない人を巻き込んでいくためには、リーダーとそのリーダーを支える人たちが大事であると思う。
- 委員：人を引っ張っていく人は人を楽しませることが出来る人である。活動を通していろいろ話を

聞くと、様々な活動に加わりたい、自分の持っているスキルをアピールしたい、活用したいと感じている方はたくさんいる。そのような方たちの力を発揮させることができると地域活性化につながると考える。

- 委員：立場のある人、人脈のある人が中心となり、活動を推進できることが理想的であると考えられる。人脈のある人は人柄が大事であり、その人にはついていこうと思えるような人が選ばれていると思う。活動団体において役職を決めるときに、じゃんけんやくじ引きで決めると長続きしない。目的を持って活動したい人を集められると良いが、そのような方々を集めるためには、やはり人脈がある人が大事である。人脈のある方が中心となり活動を広げられると持続可能な活動になるのではないかと考える。
- 委員：小さな声、マイノリティの声をちゃんと聞けるような人、例えば障害のある方や、外国籍の方や日本語が母国語ではない方、セクシャルマイノリティの方の声を聞ける人が地域にいると良いと思う。
また、いい意味でおせっかいで、何か困ったと感じたときに、相談できるような人がこの地域にいて、専門の人に繋いでくれるような人が地域にいればいいと思う。
- 議長：次に目指す地域のイメージについて検討したい。
いろんな組織が地域で継続していくためには、人材が次々と出てこないで活動を繋ぐことは非常に難しいと感じる。持続可能性を考えた時に次々と担い手が出てくるような地域というのが理想的であると考えられる。
- 委員：地域の活性化は経済的な活性化と社会的な活性化があると考えられる。社会教育委員が関わる活性化は後者であると考えられる。まちが元気になり、お金でいろんなものができて、人がたくさん集う、そういうことだけではなくて、もう少し、人に寄り添い、マイノリティの方の声をちゃんと聞き、地域がつながり持つことが社会教育委員として考えていく地域活性化であると感じる。
- 委員：活性化された地域の具体的なイメージについて①地域住民が相互に繋がって信頼関係が良好であること。②防犯、地域のセーフティーネットとなること。③子供を中心に、子どもの成長を見守っていく地域。④災害時の相互扶助。⑤地域の清掃活動ができている。これらが考えられている地域だと、人々が繋がりをもち、信頼関係を強められ、活性化された地域といえるのではないだろうか。
- 委員：以前講演で聞いた「サーモンプラン」という言葉が印象的である。
例としては飼育委員だった子が、成長して飼育ボランティアとして戻ってくるようなイメージである。
子供の頃に楽しませてもらった経験がいずれ楽しませる側に回るように循環することができれば、活動の担い手が途絶えず、地域の活性化につながるのではないかと考える。
- 委員：目指す地域としてコンパクトな地域を考えた。高齢になると役所の各種申請手続きに関しても家の近くでできたらいいなと考えることがある。イベントについても学校の運動会はみんなが集まってみんなの顔が分かりあえるなど、この地域で様々な機能があり、かつ、楽しめるようなコンパクトな地域を目指しても良いのではないかと考える。
- 委員：「徒歩圏内に自己実現の場を、徒歩圏内に社会参加の場を」というお話を以前、聞いたことがある。自己実現の場があることが、社会の活性化につながるのではないかと考える。
- 委員：世代をどう繋ぐかという問題で、下校ボランティアを募るとある程度シニアの方が集まる

が、何回か続けていくと、保護者も集まってくる。子供の活動を通して、シニアの方々が親世代を巻き込み、世代間がつながっていく様子が見られた。「子供たちが楽しんでいるな」と実感があれば「自分たちもお手伝いをしよう」という循環ができてくる。

○委員：目指す地域のイメージは、居場所や活躍の場があり、生きがいを感じられる地域であると考ええる。

具体的には安心安全に生活できることや、持続可能な仕組みが確立されており、誰も取り残されることのないインクルーシブな社会を構築していくことである。

○委員：目指す地域のイメージは、様々な手法を用いて情報がしっかり受け手に届くことができる地域であると考ええる。

情報がしっかり行き届く地域が、様々な場面においても持続可能なことに繋がるのではないか。

○委員：生活の中において、防災と防犯は本当に大切である。そのような地域を作るにしても、やはり学校単位だと、とてもわかりやすい。

子供を中心とすると大人が自然と集まってくるので、地域学校協働活動も重要である。また、生涯学習や社会教育の拠点として、公民館やコミュニティセンターも講座を企画されて、それをきっかけにサークルができて、活動が広がり、定着していくので、そのような施設もついても重要である。

○議長：今回いただいた意見を基に文章化の作業を進めたい。

次回は第3章の（1）人材育成に向けたプロセス（2）人材の活用についてご検討いただきたい。

令和4年11月25日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎 3階会議室